

新島の火山活動解説資料（平成 30 年 1 月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図 2）
式根監視カメラ（丹後山の西南西約 4 km）による観測では、丹後山山頂部に噴気は認められません。
- ・地震や微動の発生状況（図 3 - 、図 4）
新島付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、火山活動は低調に経過しています。
火山性微動は観測されていません。
- ・地殻変動の状況（図 1、図 3 - ）
GNSS²⁾連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

1) マグニチュード (M) は地震の規模を表します。資料中のマグニチュードは一部暫定値も含まれており、後日変更することがあります。

2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

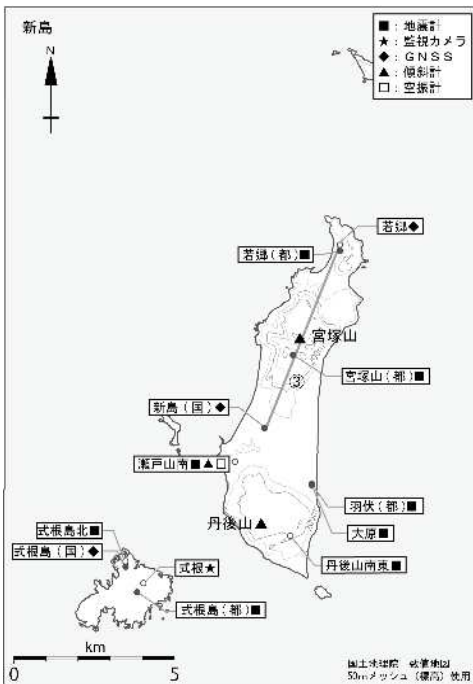


図 1 新島 観測点配置図

GNSS 基線は図 3 の に対応しています。

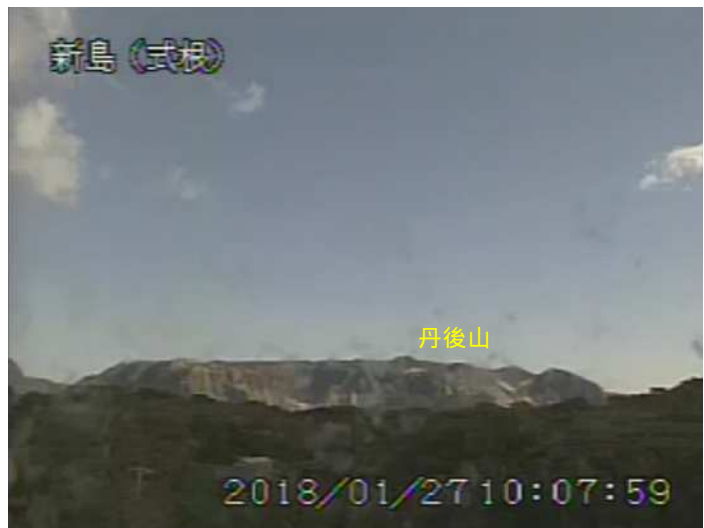


図 2 新島 丹後山山頂部の状況
(1 月 27 日、式根監視カメラによる)

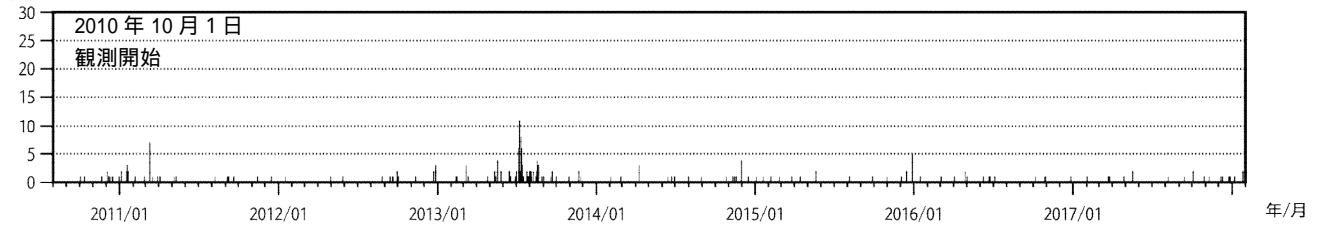
この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 30 年 2 月分）は平成 30 年 3 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、東京都及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

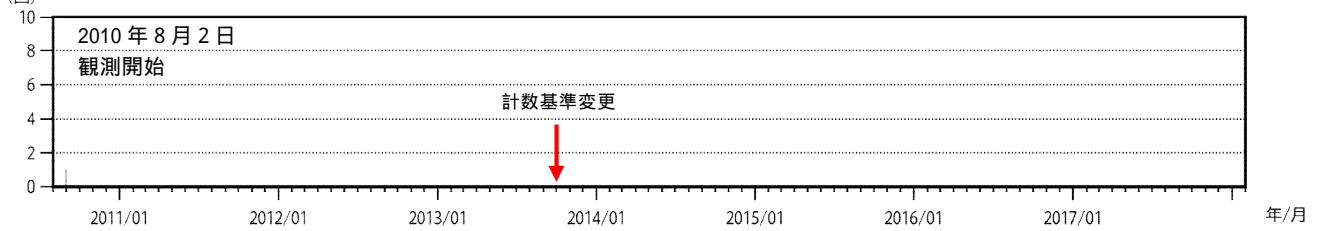
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用しています (承認番号: 平 29 情使、第 798 号)。

【計数基準の変遷】	
A型地震	2010年10月1日(観測開始)～ 瀬戸山南から半径約8km、深さ約20km以内
BH型地震	
初期	2010年8月2日～2013年9月30日 瀬戸山南振幅0.8 μ m/s以上
変更	2013年10月1日～ 瀬戸山南振幅4.0 μ m/s以上

① 日別A型地震回数



② 日別B型地震回数



③ GNSS観測 若郷-新島(国) (基線長 6173m)

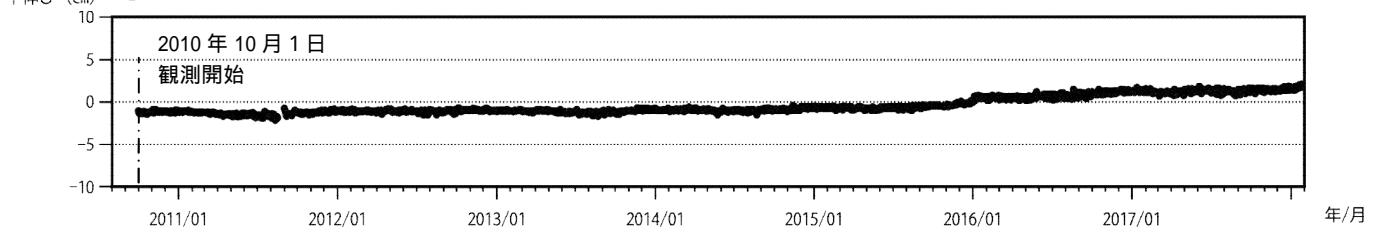


図3 新島 火山活動経過図(2010年8月2日～2018年1月31日)

(国): 国土地理院、図1のGNSS基線 に対応しています。
 2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更しています。
 グラフの空白部分は欠測期間を示しています。

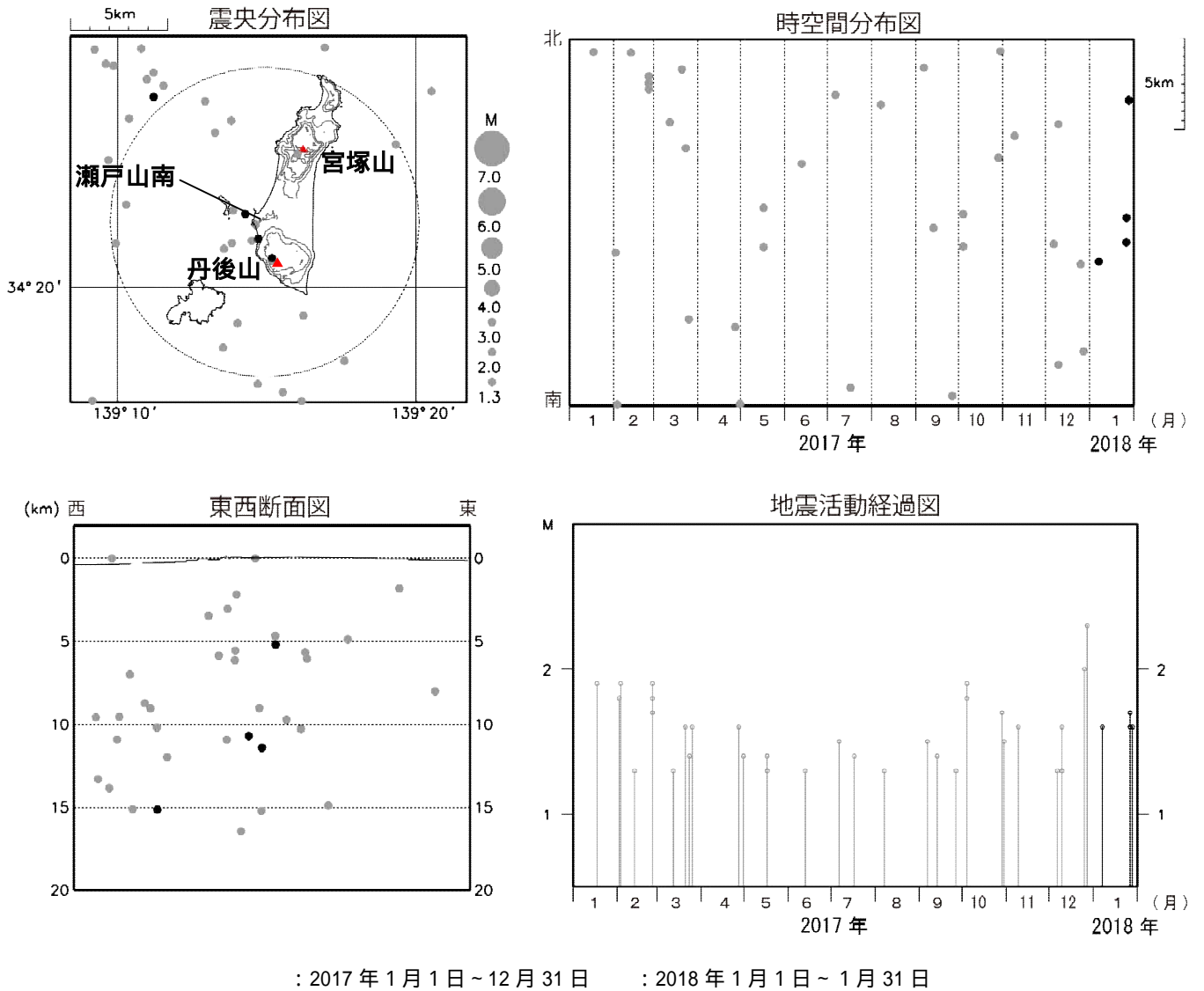


図4 新島 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動(2017年1月1日～2018年1月31日)

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。

M(マグニチュード)は地震の規模を表し、M1.3以上の地震を示しています。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

計数対象(瀬戸山南から半径約8km、深さ約20km以内)以外の地震が含まれるため、図3 - の日別A型地震回数とは異なります。